

関東信越税理士会長岡支部長賞

学習環境と税

新潟大学附属長岡中学校

三年 井上 歩輝

先日、私は学校で税に関する授業を受けて、私たちの生活は税金によって成り立っているのだということを強く感じた。

自分自身が一番恩恵を受けているのは、義務教育を含む学習環境だ。学校では、机、イス、黒板などの備品や教科書、電気や水道、校舎の維持管理費、職員の人件費など多くの費用に税金が使われている。

インターネットで調べてみると、小学校一年生から中学校三年生までの九年間で一人当たりおよそ八百万円税金が使われると書かれてあった。高校までを考えると一千万円を超える額になるらしい。これを家庭で払うとなるとかなり家計を圧迫するだろう。私はこれだけの金額が税金で賄われていることに驚きを感じた。

また、私は集中して学習するために、図書館をよく利用する。二時間ぐらい学習した後は気分転換に自分が好きな作家の本を読んでリラックスすると、また集中して学習できる。以前は、調べ学習に必要な資料について、「こんなことを調べたいのです」と図書館のカウンターで頼むとすぐに探して、無償で貸

し出してくれた。

所得税、消費税、車の税金など、親は「税金が高い」とよくつぶやいているが、やはり、子ども一人にかかる税金を考えただけでも、それぐらいは納めなければ成り立たないだろうと思う。私たちの親の世代が、私たちの将来に期待を込めて、義務教育期間を支えてくれているのである。税金は、お金を取られるというイメージしかなかったが、こんなにも感動的事実があると、少し税に親近感がわくものである。

二〇二三年四月には、こども家庭庁という行政機関が設置される予定である。子どもを取り巻く行政事務を集約するというものだ。「いじめ」「児童虐待」「ヤングケアラー」など、これらの社会問題によって、学習環境に恵まれない子ども、あるいは、学習の機会が奪われている子どもがいるのは、本当に悲しいことである。しかし、こども家庭庁の設置によって、未来を担う私たちが、安心・安全に暮らし、平等に教育の機会を与えられるような世の中になっていくと期待される。だからこそ、そこにより多くの税金が使われるべきだと思う。

私たちはもうすぐ十八歳になり、成人として認められる。そして、選挙権が与えられることになる。政治家は、いろいろな公約を掲げているが、私は、子どもの学習環境がより整うような公約のように、すべての子どもたちにとって、学習環境が保障され、しっかり学べる世の中であってほしいと思う。

税金は、未来のよりよい日本、よりよい世界をつくる、子どもたちへの投資であると、私は考える。